

沿岸重要資源動態調査

漁業課長 浅 加 信 雄
技 師 十 三 邦 昭

I 調査目的

本県沖合に來降するブリは北上、南下の季節的迴游をおこなっているが、局地的移動を把握するため、漁況調査、魚体調査並びに標識放流を実施して、沿岸漁業振興の指針とするものである。

II 調査内容

イ 調査場所 沢辺、深浦、鰐ヶ沢、三厩

ロ 期 間 自 昭和42年6月～至 昭和42年11月

ハ 調査項目及び方法

漁協からブリの漁獲高を漁業別、日別、銘柄別に調査し、特に大型定置網においては朝、夕網別の揚網状況等を調査、この外、関係漁民からの聞き取りによつた。

III 調査経過並びに結果

従来よりブリの漁況については若干の考察は加えられてきているが、生態調査並びに環境調査については深く掘り下げられていなかったために本年はこの点については重点的に調査を行うことにしたが、予算上の問題があるとともに、ブリの漁獲が例年より不振であつたこと等から調査が円滑に行われず、魚体調査、標識放流等を実施することが出来なかつた。したがつて漁獲量及び聞き取り調査が主体となつてしまつたが、以下、本県のブリについての知見を概略ながら記述することにする。

1. ブリの呼称

ブリは出世魚と云われ、成長に伴つてその呼名がいろいろ異なっている。本県ではイナダ、フクラギ、アオ、ワラサ、及びブリと呼んでいるようで、又季節的に夏ブリ、秋ブリ、寒ブリ等とも呼ばれているようである。調査地域による呼名並びに魚体の大きさについては下記のとおりである。

	イナダ	フクラギ	ア	オ	ワラサ	ブリ		
						計	中	大
沢 辺	0.3～1.5Kg	0.3Kg以下			2～3Kg台	4 Kg 以上		
深 浦		2 Kg以下			2～3 Kg台	4～5Kg	5～7 Kg	7 Kg以上
鰐ヶ沢	0.2Kg以下	0.3～1.5Kg	2～3 Kg台			4～7.5 Kg		7.5Kg 以上
三 厩		1.5 Kg以下				1.5～4 Kg	4～8 Kg	8 Kg以上

2. 漁 獲 量

昭和36年～42年までの調査地域のブリの漁獲高は第1表及び第2表のとおりで、沢辺地先では定置網により7～48トン、深浦では定置網により80～210トン、曳釣で1～13トン、鰯ヶ沢地先では曳釣で3～8トン、又、海峡の三厩地先では1本釣により10～70トンの漁獲で何れも年変動が大きく、豊凶の差が著しくなっている。

3. 漁 期

本県日本海側の沢辺、深浦、北金ヶ沢、鰯ヶ沢地先では魚期は殆ど変わらず、早い年には4月下旬より来游がみられているが、例年は5月上、中旬頃からである。盛漁期は6月上、中旬～7月下旬までであるが、遅い年には、8月に盛漁期が形成されるときもあるようである。これらの時期には主として定置により漁獲され、漁獲の主体となる魚体も2kg～3kg台のワラサ及び6～7kg級の中型ブリである。フクラギ級のは7月頃よりみえ始めているが、曳釣漁業が始まるのは8月上旬からで11月まで漁期が形成される。なお、南下期の大型ブリの盛漁期は定置網では11月～12月までで、漁獲は1月末までみられているが、フクラギ級のは2月に入つても姿がみうけられることもある。又、津軽海峡の三厩地先では5月中、下旬頃より来游がみちけられているが、最近では6～7月頃より操業を行っている。

北上期は7月が盛漁期で、南下期は11月が盛漁期となっており、1月10日頃まで漁獲がみられるようである。

4. 漁 場

沢辺、深浦地先で建込みの大型定置網は水深20～30m附近である。又深浦、鰯ヶ沢地先で操業しているフクラギ曳釣も巨岸1哩以内の極く沿岸寄の水深も40～50m附近である。海峡三厩地先の1本釣は、北上期には水深30m以内の極く沿岸寄に漁場が形成されるが、南下期においては水深50～100m附近に漁場が形成されるようで、夏ブリは底質が根及び砂地を滞泳するが、秋ブリは根だけに漁場が形成される。

5. 漁 獲 水 温

当水域で実施している鮪作崎沖1～5哩の海洋観測結果からと沢辺地先の定置網の漁場水温から検討して北上期のブリの漁場水温の下限は9～10℃と推定される。又、盛漁期の水温は14℃～18℃と推定されるが21～24℃においてもかなり良い漁があげられており、一概に断定するのは困難のようである。次に南下期の漁場水温であるが、これも鮪作崎沖の海洋観測結果からみて、16℃あたりから南下し始めるのではないかと考えられるが南下期の最も良い水温は11～14℃と推定される。又、下限は1月の沿岸水温等から判断し、6～7℃あたりではないかと思われる。

6. 回 游

ブリは春から夏にかけて北上し、秋から冬にかけて南下するが、本県沖では沢辺、深浦、北金ヶ沢、鰯ヶ沢沖と順を追って北上し、北海道西岸を北上するが、一部は津軽海峡に入り、太平洋側にぬけて北海道噴火湾方面に達していることは過去の標識放流結果から知られている。又漁期の推移からみてもわかるように津軽海峡三厩地先では、日本海側より約1週間～10日位遅れて回游がみうけられるようである。この北上したブリは反転南下し始めるが、三厩地先

に南下群が現われるのは例年10月上、中旬からで、この群は噴火湾方面から津軽海峡に入り海峡を西進してきた群であろうと考えられる。

日本海、鰺ヶ沢、深浦地区等に漁獲される南下群は津軽海峡から南下してくる群と北海道西岸を南下してくる群とがあるが、海峡からの群が若干早いようで、例年10月、中、下旬頃からと推定される。

しかし、全般に北上、南下の回遊にしても移動速度は年令によつて若干異なるようで大型ブリ程早いようである。日水研が深浦沖で11月に放流したワラサ級のものでも1週間位で富山、石川あたりまで達するものもあるようである。しかし、小型若令魚ほど遅く、又、滞永間も長いようで、11月深浦地先で放流したフクラギ級のが逆に北上して鰺ヶ沢沖で再捕されたものもあつた。又、時期的にも移動速度は異なるようで北上期は遅く、南下期は早い。厚群游泳層は定置網及び1本釣の漁場からみて、北上期は水深20～60m、南下期は40～120m附近で、游泳層の範囲は180m以浅と考えられる。なお、北上期の回遊は若令魚、成魚をわず索餌回遊で、南下期の回遊は大型ブリについては産卵回遊と推定されるが、本県沖では卵は秋期にまれにみられることもあるが非常に小さいようである。

7. 生 態

ブリは沿岸性、回遊性魚であることは今更申し述べるまでもないがすう光性の魚でもあり、三厩沖での1本釣では夜間光力を利用して漁獲しており、光力を利用した船と使用しない船では漁獲に著しく差があるようである。昼間沖合に出て夜間沿岸に遊するようで、このことは日中の1本釣漁場の移り変り等からみても明らかである。即ち明け方、次第に明るくなるに従つて漁場が沖の深みに移動し、夕方は反対に沖から沿岸寄りへ漁場が移行している。定置網では夕網よりも朝網の方が漁が良いがこれは夜のうちに入納したものであろう。又、餌付は日の出前後が最もよく、次いで夕方がよく、日中は食いが悪い。

底質が容礁の陸棚縁辺附近に多く集まるようで、低気圧通過の2～3日前後に漁があると云われているが、これは定置網及び1本釣の漁ともに共通しているようである。潮流との関係では、三厩地先では大潮により余り関係がないと云われているが、地形的に潮流のはげしい場所でもあるからで、他地方では大半、大潮期にはブリが活潑に運動し、餌付きが良いようであるが、全般に潮流の変化の多いところが好漁場となつている。晴天よりも曇天に漁が良いが、海水がにごっている時は漁が悪い。又、北上期は下り潮が良く、南下期には上り潮の時漁が良いようである。風向は定置網の場合、WかNWの時漁がよいようである。魚種関係においては三厩地先ではサンマが海峡に入り込んでいる時、漁が良い。

8. 食 性

生態調査を余り行っていないので詳細のことは分らないが、ワラサ以上のブリについては魚類を多くとつているようで、日本海側ではカタクチイワシ、スルメイカ、サバ等を食しているようである。三厩地先では、サンマ、カタクチイワシ、スルメイカ等を食しているようである。

9. 昭和42年ブリ漁況の経過

日 本 海

北上期における春ブリは深浦地先の大型定置網で漁獲されたのが最も早く、5月初めより現われているが、纏つて漁獲があつたのは6月中旬からで、例年のような盛漁期の漁獲の盛り上

がりがみられず、7月中旬まで断続的な漁が続いた。しかし、7月以降も全く低調で漁期間(8月末まで)沢辺地先には13トン、深浦地区に38トン、北金沢地区では2トンの水揚げで春網としては昭和38年に次ぐ不漁であつた。魚体は5月中旬まではワラサ級が主体で、下旬以降5~9Kg級が殆んどであつた。本年は特にワラサ級が少なかったようである。一方、南下期は深浦地先に10月13日より漁獲がみられており、11月上旬~12月上旬にかけて1ケ統当たり1トン前後の稍々纏つた漁獲があつたが、以後薄漁となり、1月も全く低調に経過し、漁期間 深浦地区には92トン、北金沢地区では16トンの漁獲で、深浦地区では去年の約 $\frac{1}{2}$ 、北金沢地区では $\frac{1}{4}$ で、春網同様全く不振であつた。また本年初めて、秋網を建込んだ沢辺地先でも5トンの漁獲よりなかつた。しかし、フクラギ級の場合は、ここ数年にない好漁で深浦地区における総漁獲の約 $\frac{1}{3}$ を占めている。特に秋網もワラサ級が悪かつたようである。

津軽海峡

三厩地先では7月6日に初漁があつたが、昨年同様魚群の来游が極めてうすく、7月中の漁獲は僅か2隻で13Kgの漁獲よりなかつた。又、8月、9月も同様、濃群の来游は全くみられず、北上期の9月まで367Kgの漁獲よりなく、ここ数年にない不漁に終つている。しかし、南下期のブリ漁は10月下旬より濃群の来游がみられるようになり、小、中型ブリ主体に11月中旬まで好漁がみられたが、例年より若干遅くまで漁期が続き、1月13日まで漁獲がみられている。10月~1月までの漁獲量は54トンで昭和36年以降最も多い水揚げであつた。なお、夏ブリ、秋ブリ共、近年は魚体が小型化の傾向を示しており、本年も型は小さい。

日本海、津軽海峡の海況を総体的に考察してみると、北上期の来游資源量は極めて少なかったものと考えられるが、南下期においては、太平洋系群が相当入り込んで、これが三厩沖に好漁をもたらしたものと推定される。しかし、日本海側を南下する時点において、暖流の巾が大きくなり、例年より海が温暖であつたためブリが沖合を南下したものと考えられる。

IV 考 察

本年はブリが不振であつたことと、予算が少なかったため漁獲量並びに聞き取り調査が主体となつてしまつたので推定の域から脱け切れなかつた点もあるが、今後、これを確認するためにも基礎的調査即ち生態調査、環境調査を継続実施して行かなければならない。しかしながら、生態調査にしても標識放流にしてもブリは高級魚であるため僅かな予算では実施出来ないのが現状である。近年日本海と太平洋の津軽海峡における交流問題が最も重要視されるが、これを解決するためにも毎年北上、南下群を対象とした計画的な標識放流生態調査が必要である。

第1表 調査地域別定置網年別漁獲量

(単位Kg)

年別 地域	36年	37	38	39	40	41	42
沢 辺	26,248	14,493	7,171	17,623	41,632	47,692	17,260
深 浦	91,722	28,633	83,192	131,550	211,800	200,823	130,027

第2表 調査地域別1本釣年別漁獲量

(単位Kg)

年別 地域	36年	37	38	39	40	41	42
深 浦	5,172	12,487	4,394	1,328	3,808	1,722	1,731
鰺ヶ沢	8,130	5,179	3,067	2,952	4,199	397	5,041
三 厩	71,511	11,395	不 明	3,744	12,830	17,070	54,081

注 延縄は含まず

第3表 調査地域別定置網年別月別漁獲量

(単位Kg)

沢 辺

月別 年別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	計
40	16	1927	32,675	6724	290						41,632
41		2,786	2,637	2048	40,222						47,693
42		81	6,534	4,986	215		788	4,431	208	17	17,260

深 浦

月別 年別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	計
40		1,554	39,796	34,688	5,019		8,120	72,066	50,557		211,800
41		1,809	20,39	70,75	7,288		1,661	74,016	55,628	51,307	200,823
42		196	6,330	29,960	1,428		2,395	75,484	13,718	516	130,027

第4表 調査地域別1本釣年別月別漁獲量(単位Kg)

深 瀬

月別 年別	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	計
36年	2,027	2,538	390	219			5,174
37年	1,053	2,110	3,899	5,424	1		12,487
38年	24	3,876	239	255			4,394
39年	535	163	585	41	4		1,328
40年	549	2,429	814	16			3,808
41年	134	1,254	322	12			1,722
42年	88	1,430	28	182	3		1,731

鰻 ケ 沢

月別 年別	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	計
36年		3,933	2,256	923	1,018		8,130
37年	10	2,102	1,681	1,294	92		5,179
38年			2,066	543	458		3,067
39年		679	1,929	344			2,952
40年		944	403	1,424	1,428		4,199
41年		91	240	66			397
42年		276	2,478	892	1,395		5,041

三 厩

月別 年別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	計
36年		20	1,900	19,400	603		255	4,554.5	22.6	1,592	71,511
37年	34	11	1,621		863		42	8,697	127		11,395
38年											
39年	4	11	70	2,680	328	573				78	3,744
40年			2068		4,147	382	4,263	1,924	46		12,830
41年				230	7,718	17	2,022	7,083			17,070
42年				13	45	310	21,959	25,520	61.82	52	54,081

第5表 銘柄別漁獲量 (単位Kg)

沢辺地区42年大型定置網

月別 年別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	計
ブリ		805	6,633	4,598	215		2,930	1,690	70		11,995.5
ワラサ	20			4,900			80.5	10,680		28	1,643.3
フクラギ							4148	3,194.1	201.0	145	3,824.4
計	20	805	6,633.0	5,088.0	215		7,88.3	4,431.1	2,080	173	17,463.2

深浦地区銘柄別漁獲量(昭和42年)

月別	延続数	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	ワラサ	フクラギ	混 合
5 月	69		7		17	3	58		111
6 月	87			4,507	911		45		867
7 月	71		135	24,775	4,654		7		389
8 月	43			17	169	174	973	95	
小 計	270		142	29,299	5,751	177	1,083	95	1,367
10月	17	74	340	14	117	864	119	817	49
11月	76	0,586	46,926	1,206	1271	734	1,281	13472	6
12月	47	109	2,195	1,129	242	77	61	9917	38
1 月	22	32	73	159	129		9	41	8
2 月	2							52	12
小 計	164	10,801	49,534	2,508	1,759	1,675	1,470	24,299	113
総 計	434	10,801	49,676	31,807	7,510	1,852	2,553	24,394	1,480

銘柄別区分 深浦地区

1人(10Kg以上) 2人(8~9Kg台) 3人(6~7Kg台) 4人(5Kg台)
 5人(4Kg台) ワラサ(2~3Kg台) フクラギ(0.2~1.5Kg)

昭和42年三厨地区鉾柄別漁獲量

月 別	延 隻 数	大	中	小	フ ク ラ ギ	ブリ、太 中 小 混 合
7 月	2					12.6
8 月	5					44.7
9 月	26			2.3	279.7	27.5
10月	400	80.0			77.6	21.801.0
11月	575	146.9	95.58	1.139.8	10.0	23.267.2
12月	414	17.0	4.991.0	1.173.9		
1 月	5		27.0	24.6		
計	1,427	243.9	5.973.8	2.340.6	367.3	45.153.0

第6表 深浦地区朝網 夕網別月別漁獲量

春 網

月別 網別	揚網統数	5 月	6 月	7 月	8 月	計
朝 網		215.4	2353.6	24548.0	707.6	27824.6
夕 網		110	3893.3	5432.0	125.0	9461.3

秋 網

月別 網別	揚網統数	10月	11月	12月	1 月	2 月	計
朝 網	延 157	2394.7	68585.7	13768.0	451.3	64.2	85263.9
夕 網	延 7 統		6897.0				6897.0

第7表 フクラギ曳釣月別漁獲量

昭和42年深浦地区フクラギ曳釣漁獲量

月別	8 月	9 月	10月	11月	12月	計
漁 獲 量	87.7Kg	1429.7	28.0	182.0	3.0	1730.4
延 隻 数	12	85	8	13	1	119

昭和42年鰐ヶ沢地区フクラギ曳釣漁獲量

月別	8 月	9 月	10月	11月	12月	計
漁 獲 量	276.0	2478.0	892	1395		5041.0
延 隻 数	17	94	42			



